

橋梁補修設計研修会報告 (H.25.9.5～9.6 開催)

技術マネジメント研究所 代表 上野浩司

平成 25 年 10 月 7 日



・技術マネジメント研究所 上野代表の冒頭挨拶

若手技術者の教育・育成事業として、維持・管理分野の重要テーマである橋梁補修設計の研修会を広島で2日間実施いたしました。冒頭、当研究所の上野から研修生に対し、「自らの成長を責任とみなし、日々の仕事に取り組むこと」の重要性を述べさせていただきました。

今回の参加者はアベノミクスによる業務多忙・7月中旬からの集中豪雨災害の影響もあり、19名の参加となりました。参加企業は広域にわたり、遠方は熊本県、高知県からもご参加いただきました。

今後はぜひ、実践で研修結果を活かしていただきたいと思っています。技術的に困ったことがあれば、遠慮なく講師に尋ねていただくようお願いしました。



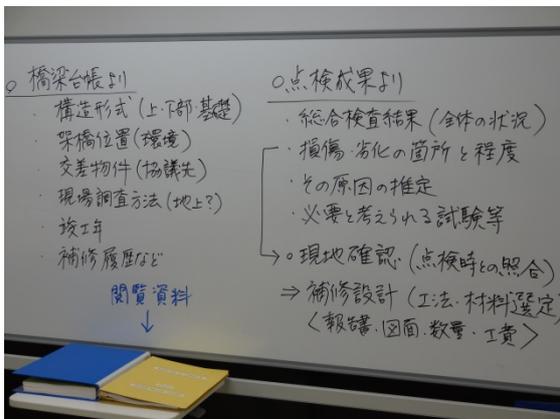
・熱心に講義を受ける研修生

研修項目は以下の通りです。

1. 概説
(補修設計の流れ、必要な基礎資料、現地調査で確認すべき事項等)
2. 橋梁点検の基礎知識
(点検の着眼点)
3. 劣化・損傷原因究明のための詳細調査
(劣化・損傷要因、調査方法の選定、劣化・損傷原因の判定)
3. 橋梁補修設計
(工法選定の考え方と設計事例)
4. 演習
(グループ討議、結果発表と質疑応答、Q & A(事前に Q のアンケートを実施))



・グループ単位の演習ミーティング



・橋梁補修設計に必要な基礎資料（演習時に使用）



・演習時、講師との意見交換

皆さん、真剣に研修を受けられたことが印象的でした。感心するとともに、このような研修会を開催させていただいたことに感謝しています。必ずや今後の業務実施に活かされることと思います。

最後に皆さんから今後の研修改善に向けて、意見・要望をいただきました。主な意見・要望は以下の通りです。

- ① 今回の研修会は「演習」が行われたことにより、これまでぼんやりしていた点を実務的により鮮明に認識できた。特に発表者への質疑応答は実務さながらのやり取りであった。
- ② 演習問題は知識不足・表現力不足など自身の弱点を見直す良い機会となった。

- ③ グループ分けを初日から行い、グループの中で経験者が初心者に指導を行う方法も考えてはどうでしょう。
- ④ ある程度の基本事項は研修前テーマとし、研修においては実務内容をより多く取り入れていただくと理解度が増します。
- ⑤ 「演習」ではグループにより時間の余ったところがあり、この場合の別オプションを用意しておけば良かったと思います。
- ⑥ 損傷箇所を実際に現地で確認し評価を行うことが出来ればと思いました。

今回の研修テーマは点検調査マニュアル、補修設計マニュアル等が国・自治体で出されています。研修生のレベルも異なる中で「若手技術者の教育研修」としてはグループ構成、演習問題の割り当て等細やかな配慮が必要であったと考えています。一方で研修生から「今後も若手技術者を対象とした研修会を続けて頂けるとありがたいと思います」といった要望もいただきました。引き続き皆様のお役に立てるよう努力する所存です。